

### 韓国、台湾で観光・語学研修の誘致プロジェクト



韓国ではソウル市の北東北3県・北海道ソウル事務所、水原（スーウォン）市役所などを訪れました。

台湾では、台北市の日本交流協会台北事務所文化ホールで日本語研修生の募集説明会を行い、満員の120人が詰め掛けました。写真II。

書類選考で合格した23人が7月3日から2カ月と3カ月の2コースで来町します。高校生対象の韓国研修コースは、7月31日から1カ月間、20人が来町します。

韓国、台湾からは、東日本大震災後多額の義援金が日本に届きました。あふれるほどの応援メッセージも被災地に寄せられました。

その支援の気持ちにこたえるため、町は今年の研修生を無料で受け入れることにしています。

### 「Aひがし」がわ「ロープ」のほんが毎回の移動販売車



生活協同組合コープさっぽろ（札幌 大見英明理事長）の移動販売車「おまかせ便」が町内に登場しました。6月16日、東川町農協事務所前でテープカットして運行開始を祝いました。

2トントラックの中に約千アイテムの生鮮食品、日用品を積み、町内を巡回するトラック移動販売車です。農家地区を中心に町内5カ所で停車販売します。

コープさっぽろ・山口敏文専務理事 板谷重徳東川町農協組合長、松岡市郎町長の3人がテープカットしました。

山口専務は「初めて農協の組合員勘定で決済できるシステムになった」と期待を込めました。

松岡町長は「庭先まで出向いてくれて買物ができる、というのは先導的な試み」と期待を寄せました。一般市民も自由に利用でき、取り寄せ予約をすることもできます。

この日は併せて同農協事務所に憩いの場「笑味（えみ）ちゃん家（ち）」もオープンしました。

1階会議室約56平方メートルを、自由に利用できる談話室（休憩室）として改築しました。

### 旭川の豊岡さんが秘蔵カメラを寄贈

旭川市内在住の豊岡武雄さん（75）が東川町に秘蔵のカメラを寄贈してくれました。6月23日、文化ギャラリーを訪れました。

HOYA（株）（東京）のカメラ事業部門、ペンタックスの前身、旧旭光

学工業（株）が1979（昭和54）年に発売した「ペンタックスオート110」です。

「7、8回使っただけ」というように、保存状態は最高。「東川でぜひ使って役立ててもらいたい」と持参して



### 災害救命医療の経験を、旭医大医師が講演

東日本大震災後の医療専門チームメンバーとして2度にわたって震災被災地入りするなど、阪神淡路大震災の医療ボランティアとして経験豊かな町内在住の旭川医大病院救急科助教、及川欧医師を講師に招いて、5月27日役場で防災講演会を開きました。



「診察時にマスクをしていると、患者の目の目がうつろで、こちらに視線をくれない。マスクをしている相手にまったく関心がない、というのは元気がない証拠だと思ひ、マスクをはずし、手を握ってみた。すると途端に家族のことを話してくれるようになった。など被災者の状況を話しました。

「本を読んでいるわけでもないのに目の疲れを訴える人が多い。空気がどれほど汚れているか、ということに気がついた」「不思議なことに、肩こり、腰痛のあった人が、震災前に比べて痛みがなくなった、という人が半数に及んだ。ストレスがかかった状態に置かれていると、痛みを自覚しないようだ」

### 初登場のポニー馬車が大好評、くらじ楽まつフェス

5月28、29の2日間、キトウシ森林公園で第50回くらじ楽まつフェスティバルが開かれました。

衣類、雑貨のフリーマーケットに加えて、花と野菜の苗、ウド、フキなど春の野草販売も大人気。心配された天候の大きな崩れもなく、芝生の飲食会場できつろぐ家族連れの楽しそうな笑顔がいっぱいあふれました。

### 東川と美瑛の写真クラブが交流撮影会で初対決



東川と美瑛の写真クラブが初めてのクラブ対抗写真撮影交流を行いました。

6月12日、東川フォトクラブ（白田健二会長）、美瑛写真会（武藤勝志会長）の会員10人ずつが文化ギャラリーに集まりました。

デジタルカメラを使って町内中心部の羽衣公園、市街地の町並みなどを思い思いに撮影。出来上がった作品を持ち寄ってA3版のプリント出力をして講評しあう、という企画です。

「月間フォトコン」（株日本写真企画刊）誌主催の誌上企画「クラブ対抗

デジタルフォト合戦」として実現しました。

当日は同誌の藤森邦晃編集長、東京で活躍している写真家、種清豊氏らが写真指導、講評、選考をしました。

参加者は初の企画に「大人の写真甲子園だね」と撮影意欲満々。継続開催の希望も多く出ていました。

カメラ、プリント用印刷機材はキヤノンMJから無償貸し出し提供を受けることができました。この日の結果は同誌8月号で誌上发表の予定です。

